

10501

頁 三六 第

九百七十五

谷一

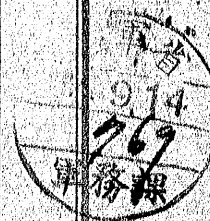
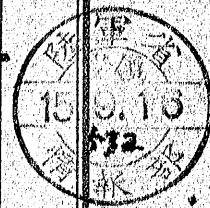
呂集団戰時月報甲第十號別冊

宜昌作戰之基敵軍其他觀察資料

当部三一部係修官
陸軍大臣官房政史編纂室

呂集団參謀部

五部



陸軍

1058

軍事極秘

昭和十五年七月 呂集國戰時月報甲第一〇號別冊

宜昌作戰ニ基ク敵軍其他觀察資料

呂集國參謀部

目次

- 第一、敵軍抗戦力ノ觀察
 - 一 敵軍ノ統制力
 - 二 敵軍ノ統帥指揮
 - 三 敵戦力ノ消長
 - 四 敵戦力ノ特性
 - 五 戦意
 - 六 攻撃力
 - 七 督戦竝雜軍ノ戦意
 - 八 敵軍ノ編制裝備
- 第二、敵軍ノ戦法
 - 一 對速進速退
 - 二 攻勢思想ノ増加
 - 三 夜間戦闘ノ賞用

四 山地依存ノ戦法

五 強力兵團ヲ以テスル游撃

第三、支那軍ノ特性ニ關スル一部ノ觀察

一 蟄集性

二 執拗性

三 増長性ト萎縮性

第四、其他

一 宜昌作戰ノ特色

二 作戰的成果

三 政略的成果

四 進攻作戰ニ就テ

第五、我各兵團ノ機動、戰斷力ニ就テ
敵軍今後ノ動向判斷

附表

第一、自四月下旬 呂集團宜昌作戰綜合戰果表
至七月上旬

090T

- 第二、敵軍人員彈藥補充狀況一覽表
- 第三、宜昌作戰各部隊行程一覽表
- 第四、敵軍火炮重火器裝備調查表

第一、敵軍抗戦力ノ觀察

一 敵軍ノ統制力ニ付テ

ノ作戰ノ結果ニ見ルニ蒋介石^政衛權ノ統制力ハ依然之ヲ輕視スルヲ得ズ

即約二ヶ月ノ長期ニ亘リ彼ニ取リテ情況不明ノ間變轉多カリシ機動戰ニ於テ軍周邊ノ全軍ガ魂モ角モ統制アル行動ヲナシ終始ヲ通ジ相當活潑ニ特ニ其初期ニ於テハ從來ニ比シ寧口積極的ニ行動セシ點ハ蔣政權ノ尙健在ヲ示スモノト言フベシ

而シテ其統制力ガ中央軍以外ノ雜軍、游擊隊ニモ及ビアル點ハ從來ト大差ナク例ヘバ五月中旬ニ於テ一度擊破セラレタル張自忠軍ガ李宗仁ノ命ニ依リ反轉シテ勇敢ニ突進シ來レル點、又蔣介石命令ニ依ル第七十二師ヲ主體トスル大別山游擊隊ノ孝感、黃陂附近ヘノ突進等ニ見ルモ此ノ間ノ消息ヲ窺フヲ得ベシ

2. 然レドモ作戰ノ進捗ニ伴ヒ軍隊ノ行動ハ逐次消極退嬰トナリ末期ニ於テハ陳誠、湯恩伯等ノ必死ノ激勵、訓示ニモ拘ラス或ハ

其命令ノ拒絶的態度ニ出デ或ハ單ニ形式的ニ服行シ命令實行ノ熱度著シク低下シ威令漸ク行ハレザルニ至レルハ今次作戰ノ注目スベキ現象ニシテ軍隊ノ戦力、戦意ノ衰退ト共ニ統帥者ノ威信ヲ失墜セル點モ相當影響アリトイフベシ

即チ王纘緒ハ李宗仁ノ積極的の出撃命令ニ對シ「戦力ナキニ付京山方面游撃ノ任務ハ他部隊ヲ以テ當テラレ度」ト出撃ヲ拒否シ（六月十二日）又第五十五軍ハ「戦力ナキニ付出撃ノ任務ヲ免除セラレ度」ト湯恩伯ニ申請シ（六月二十一日）又荆門、當陽宜昌正面ノ敵軍ハ六月中旬以降敵度ニ亘ル陳誠、湯恩伯等ノ激勵ニモ其行動積極的ナラズ形式的行動多カリキ

3. 當初蔣介石ハ日本軍ハ既ニ進攻能力ナシト獨斷シ又敵ノ所謂速進速退ニ對スル新戦法ヲ採用シ之ヲ訓示セル直後ノ今次作戰ニ於テ之ヲ忠實ニ實行シテ豫期ニ反シテ我度重ナル反撃ニ遭ヒ反テ重大ナル損害ヲ招キ又作戰間屢々時機ヲ失シ情況ニ合セザル

命令ヲ下シ之ニ服從シテ常ニ豫想外ノ戰況ニ遭遇シテ苦汁ヲ嘗メタルコト一再ナラズ逐次上級統帥者ノ命令ニ信ヲ置カザルニ至ルモ亦當然ナルベシ

其之ヲ要スルニ敵中央軍部ノ巧妙ナル宣傳ト我軍ノ活潑ナル進攻ノ中止特ニ冬季攻勢等ニ依リ寧ロ彼等自ラノ力ニ稍自惚レヲ生ジ抗戰最後ノ勝利ヲ夢想シ寧ロ積極的ニ蔣ノ統制下ニ入ラントサヘセシカノ傾向見エタル各將領モ今次作戰ニ依リ其迷夢ヲ打破セラレ一般情勢ノ悪化ニ伴ヒ漸ク蔣介石以下ノ指導層ニ對シ相當ノ不信ヲ懷クニ至レルヤニ觀察セララルルモ今直チニ崩壞等ノ進程^度ニ在リトハ判斷シ難シ

ニ敵軍ノ統帥指揮ニ就テ

ノ敵軍師實力ハ逐次低下ノ狀アルモ其指揮官ノ統帥指揮ハ相當團熟積極化セルノ感アリ今次作戰間ノ一特色ハ敵軍統帥ノ比較的積極活潑ナリシコトヲ擧ゲ得ベシ即チ我作戰行動ノ開始ヲ見ルヤ敵

ハ直チニ江防軍主力ヲ襄東ニ轉用シ湯恩伯軍ヲ以テ汝源東方地
 區ニ集結シテ第三師團ノ前進ニ乘ゼシメントシ或ハ我反轉ヲ豫
 想シテ其主力軍ヲ唐河々畔ニ據キ集メ張自忠軍ヲモ渡河北上セ
 シメ相呼應シテ襄陽ニ突進ヲ策シ次デ我反擊ニ依リ之ニ失敗ス
 ルヤ敗殘湯恩伯軍ヲ直チニ桐柏ニ派遣シ游擊態勢ヲ整へ或ハ六
 月一日我漢水渡河ニ遭フヤ二日李宗仁ハ新野、老河口方面ノ第
 七十五、第三十各軍ヲ直ニ南下セシメ又五日南方兵團ノ渡河ヲ
 知ルヤ翌六日湯恩伯ノ指撥スル全軍ノ漢水東岸へノ轉進ヲ命ジ
 敗余ノ軍師ヲ鞭撻シツツ李宗仁軍、陳誠軍相策應シテ南北挾擊
 或ハ我側背攻撃ヲ企圖セシ等其對策一應ハ首肯シ得ルモノアリ
 タリ

2 又兵力ノ集中ニ關シテハ從來ノ繚花的部署ハ逐次改メラレ要點
 ニ相當ノ戦力ヲ集中發揮セシメントスルニ至リ輕易ニ大兵團ヲ
 運用シ且軍師力時ヲ要セズシテ之ヲ實行スル點ハ今次作戰到ル
 處實行セラレタル所ニシテ將來共ニ注意ヲ要スベキ點ナリトス

3. 然レ共指揮官ハ適確ナル情況ノ認識ナク命令ハ多ク情況ニ合セズ實行困難ノモノ多ク或ハ第一線兵團ノ實力之ニ伴ハズシテ其企圖ハ次々ト崩壊スルニ至レリ

又我反撃ニ遭フヤ直チニ萎縮シテ消極化シ飽ク迄斷行スルノ氣力ナク又決然我弱點ヲ衝クヲ知ラズ正面ニ兵力ヲ蝟集セシメ或ハ徒ニ戰略態勢ノ優位ヲノミ願念シテ適時斷行ノ決意ヲ欠ク等依然トシテ從來ノ欠陥ヲ操返シアリ

三 作戰間ニ於ケル敵戦力ノ消長

1. 今次作戰ニ於ケル敵ノ抵抗度ハ全般的ニ冬季作戰時等ニ比シ稍薄弱ノ感アリ之ガ原因トシテ判斷セララルモノハ

(1) 我進攻作戰ハ全般的ニ曠テ冬季作戰後ノ瘡疾未ダ癒_エズ整訓未了ノ期ニ乘シ得タルコト

(2) 敵ハ受動守勢、我ハ主動攻勢而モ陽動、欺騙行動等ノ併用ニ依リ敵ノ意表ニ出デ戰略的ニ奇襲シ得タルコト

即チ敵ハ第五戰區ニ於テ我兵力移動、重需品ノ集積等ヲ見テ

何等カノ企圖アリト判断シ陣地ノ増強、道路ノ破壊等準備ヲ
 進メアリシガ當初三月下旬信陽正面ノ孫連仲軍二個軍ヲ宜昌
 正面ニ轉用ヲ企圖シタルモ後ニ我信陽方面ノ兵力集中ヲ知リ
 テカ之ヲ中止シテ別ニ隨縣地區ヨリ第三十九、第四十五、二
 ケ軍ノ轉用ヲ部署セシガ交戦ノ結果ハ第四十五軍ハ遂ニ之ヲ
 中止シ第三十九軍ノミ判門附近ニ轉用セラレアリ又信陽正面
 ニ於テハ第三十軍ト第六十八軍トノ兵團交代途中ニアリ第九
 十二軍亦東方ヘノ移動途中ニアリシ等一般ニ作戰態勢ノ整ハ
 ル時機ニ各方面ヨリ進襲ニ會シ諸般ノ方策常ニ時機ヲ失シ統
 一セル抵抗組織ノ構成意ノ如クナラズ各方面各個ニ崩壊ス
 (ハ)宜昌作戰戰場ハ一般ニ平地若シクハ比高比較的小ナル高地帯
 多ク彼ノ得意トスル山地少ク我戦力發揮ニ有利ナリシコト
 (ニ)我ハ絕對優勢ノ航空部隊ヲ有シ而モ天候ノ關係極メテ天佑的
 ニシテ敵ニ對抗手段ナカリシコト

(ホ) 敵軍ハ蒋介石ノ所謂「日本軍ハ速進速退ノ戦法ヲ採用シアルヲ以テ其原態勢復歸ノ途上ヲ擁シテ反撃スベシ」トイフ指令ニ則リ一時我銳鋒ヲ避ケテ之ヲ見送り側撃、尾撃ノ好機タル我後退ノ時機ヲ待タントセル事及各將領ガ此戦法ヲ惡用シテ自己ノ手兵ヲ保存セントスル打算的心理モ働キ(？)廣大ナル正面ニ於テ作戰スル我軍各兵團ノ間隔内ニ側方退避ヲナシ正面抵抗ヲ避ケタルコト此ノ傾向ハ作戰當初五月上旬ニ於テ特ニ顯著ニシテ各方面悉ク此ノ戦法ニ出タル感アリ

(ヘ) 敵ノ素質ハ從來ト大差ナキモ教育訓練不足ナルモノ多ク戰鬥力ハ冬季作戰時ニ比シ稍遜色アリト判断セララル

又敵ハ兵員補充ニ相當困難ヲ感ジアリテ全般的ニ素質低下シアリ第十八軍ノ如キハ十五、六歳以下ノ年少者多シ(第十三師團ノ宜昌ニ於テ得タル俘虜中ニハ年少者多シ)

等ニシテ特ニ五月中ニ於ケル敵ノ抵抗ノ稍薄弱ナリシハ主トシテ前述ノ如キ理由ニ依ルモノト見ルヲ至當トスベク五月中旬白

河河畔ニ於ケル各兵團特ニ第七十五軍、第三十九軍、湯恩伯軍、第三十軍等皆相當ノ衝力アリテ必シモ蔣軍ノ繼戰意志ノ衰退、將領抗戰意志ノ弱化或ハ將兵ノ抗日意識ノ諦咽、戰鬥力ノ根本的低下トノミ觀ルヲ得ズ

2. 然レ共我反擊ニ依ル再度ノ大打撃ト漢水渡河後ノ敵ニ與ヘタル各種ノ打撃ハ敵ノ抗戰力ニ重大ナル影響ヲ與ヘ六月以後ノ敵ノ抵抗度ハ殆ド見ルベキモノナク狹少ノ地域ニ大兵ヲ蝟集セシメツツモ何等ナス所ナク敵軍ノ戰力低下明瞭ニシテ今後ノ敵抗戰力ニ重大ナル影響ヲ與ヘタルモノト謂フベク殊ニ當面ノ敵ガ中央軍多カリシ點ニ於テ重慶ニ與ヘタル衝動ハ今後真相判明スルニ從ヒテ之ヲ増大スベシ

3. 之ヲ要スルニ作戰當初ニ於ケル敵戰力ハ冬季攻勢時ニ比スレバ大ナル差ナキモ尙多少弱化シアリ本作戰ノ結果ハ更ニ低下ノ一途ヲ辿ルモノト判断セララル

四 各種狀況ニ於ケル敵戰力ノ變化ニ就イテ

1. 支那軍ノ戦力ガ中央軍ト雜軍トニヨリ異ルノミナラズ同一兵團ニ於テモ其時ノ形勢例ヘバ主動的力受動的ナルヤ、固守防禦カ機動戦力對手ガ孤立セル部隊ナリヤ否ヤ、或ハ戰場附近ノ地形等ニ依リ著シク其戦力ヲ異ニスル特徴アルハ從來ト變化ナク本
次作戦ニ於テモ之ヲ看取スルコトヲ得

2. 例ヘバ强者ニ弱ク弱者ニ強キ彼ノ特性ハ孤立セル部隊ニ對シテ彼ガ主動的ナル場合或ハ山地内ニ於テ設備セル陣地ニ據ル場合又ハ我反轉ニ乘ゼントスル場合等ニ於テハ意外ノ戦力ヲ發揮スル事アリ

敗殘王續緒軍ガ第四十師團ニ對シ大洪山中ノ設備ヲ利用シ頑強ニ抵抗シ或ハ呂堰鎮周邊ニ於ケル第三師團ニ對スル第七十五軍以下ノ抵抗（當時蔣介石ハ日本軍ハ其作戦ヲ終了シ反轉中ナリ各軍ハ猛烈ニ反撃スベシトノ命令ヲ出シアリ）或ハ清潭附近加川支隊ニ對スル第百二十七師ノ抵抗（孤立部隊ノ反轉ニ對シ施設ヲ利用シ抵抗ス）

其他六月下旬初メ峽口附近ノ第二、第七十五軍ノ反撃等何レモ實力以上ノ戦力ヲ發揮シアリ

3之ニ反シ戦勢浮動ノ状況トナリ又ハ我軍左右相連繫シテ相當ノ正面ヲ以テ攻撃スル場合、又ハ平地ニ於ケル戦闘、敵ノ側背等ヲ急襲セル場合等ハ一變シテ戦力低下シ潰敗スルヲ常トシ特ニ指揮組織崩壊セル場合ニ於テハ全ク潰亂ス而シテ一度我積極行動ニ依リ打撃ヲ受クルヤ俄ニ受動專守トナリ時日ノ經過ト共ニ戦力戦意頓ニ低下スルコト従前ノ如シ

敵陣地突破後ハ各方面ノ敵兵團ノ抵抗薄弱ナリシモノ或ハ唐河河畔反撃後ノ敵軍主力或ハ南昌、威寧方面ニ侵入セル敵軍ノ我反撃ニ遭ヒタル後ノ急激ナル消極化等ハ此ノ間ノ消息ヲ明瞭ニ物語リアリ

戦意ニ就テ

ノ敵軍ノ戦意ハ依然之ヲ輕視スルヲ得ズ指揮官ニ於テ特ニ然リ今

次作戦ニ於テ相當無理ト思ハルル命令ニ對シテモ各軍、師ハ兎モ角モ之ヲ迅速ニ實行シ側襲、挾撃、截撃等相當攻勢的行動ヲ採リ寧口從來ニ比シ其對策常ニ積極的ニシテ抗戰意志ノ旺盛ナルヲ示シ作戰當初ニ於テハ寧口意外ノ感サヘ懷キタリ

2. 全般ノ狀況極メテ不利ナルニ拘ラズ局部的ニ小部隊ノ相當頑強ニ抵抗スルモノアリ例ヘバ

(1) 石本支隊正面ノ小林店附近ノ第三十軍ノ抵抗、唐縣鎮附近ニ於ケル第三十九師團正面ニ於テ左右突破セラレアルニ拘ラズ唐縣鎮或ハ興隆集附近ニ於テ一部ノ殘存セル敵ガ戰車、重砲、飛行機協力ノ攻撃ニ對シ尙相當頑強ナリシ點

(2) 我白河々畔反轉攻撃時ニ於ケル第三師團正面鄆埠口附近ノ敵ハ數回ニ亙リ突撃ヲ反覆シ殆ド殲滅セラルル迄同地ヲ固守セリ

(3) 峽口附近ニ於テ第三師團ハ逆襲シ來ル敵ト接戦格闘ノ後之ヲ擊破シ又宜昌對岸確保ノ爲楊子江ヲ渡河セル第十三師團ノ一

部ハ限定セル地域占領ノ爲連日ノ激戦ヲ交ヘ

(二)或ハ大洪山中ノ敗殘王續緒軍ガ天谷兵團主力ノ力攻ニ對シ頑強ナル抵抗ヲナセル等はナリ

3. 投降歸順者相變ラズ少ク汪政權ヲ認識シ之ニ參加セントセバ其機會多ク且我ニ於テ相當宣傳其他ノ施策ヲ講ジアルニ拘ラズ未ダ成果ノ見ルベキモノ少ナキ等敵ノ戰意ノ一端ヲ物語ルモノトイフベシ

然レ共一般士兵ハ依然嚴罰ヲ恐レ又ハ盲目的抗戰ニ依ルモノ多ク特ニ今次作戰間下級將校ノ投降從來ヨリ多ク其語ル所一般的ニハ逐次戰意モ低下シツツアルモノノ如ク唯從來ノ組織ニ引摺ラレ已ムヲ得ズ抗戰シアルモノ多キカ如シ

又作戰末期ニハ將兵共ニ戰意著シク衰ヘ當初ノ迫力ナク今後一層ノ戰意低下ハ免レ得ザルベシ

作戰終了後歸順者ノ漸次増加シツツアルハ之カ一證左ナリ

六 攻 鑿 力

唯口カラ口へ反覆傳フル敵ノ抗日宣傳ノヨリ徹底シアルニ反シ
 飛行機ニ依ル傳單撒布、新聞宣傳等カ殆ド敵軍又ハ敵地民衆ニ
 對シテハ大ナル効果ヲ舉ゲアラザル如ク看取セラルルハ將來無
 智ノ支那大衆竝軍隊ニ對スル宣傳手段ニ關シ注意ヲ要スル所ナリ

1. 敵軍攻鑿力貧弱ナルハ從來ト變化ナク特ニ砲兵、戰車、飛行機
 等攻鑿兵器ノ欠如セル支那軍ニ取リ優秀ナル攻鑿力ヲ求ムルハ
 夜間白兵ニ依ル以外無理ナルバク今次作戰ニ於テモ敵ノ逆襲又
 ハ攻勢ヲ探リ來レル場合ノ攻鑿力ハ從來ニ比シ大差ナク六月以
 降ニ於テハ明瞭ニ更ニ低下シ特ニ見ルベキモノナシ

2. 然レ共六月中旬以降江南ニ於テ實施セル敵ノ攻勢特ニ南昌正面
 ノ敵ノ攻鑿力ハ相當ノ戦力ヲ發揮セリ即冬季作戰ノ如キ執拗性
 ハナカリシモ兎モ角モ棠溪又西山萬壽宮方面ニ於テハ我堅固ナ
 ル障地線ヲ突破シ障地内部ニ約二、三軒侵入シ數日間攻鑿ヲ

續行セリ

然レ共我反撃ニ遭ヒ直ニ守勢ニ轉シ數日ニシテ潰走シテ爾後再
ビ起ツ能ハズ依然トシテ支那軍攻撃力ノ脆弱性ヲ露呈シアリ

3. 江北方面ニ於テハ^五月中旬我石本支隊ノ寺莊北方ニ於ケル野條
大隊ニ對スル第八十五軍ノ攻撃、呂堰鎮附近ニ於ケル第三師團
ニ對スル第七十五軍、第三十九軍ノ攻撃、峽口附近ニ於ケル第
七十五、第二軍各師ノ攻撃ハ相當執拗ニシテ局部的ニハ相當ノ
攻撃力ヲ發揮セシコトアルモ全般的ニ之ヲ見レバ支那軍ノ攻撃
力ハ特ニ變化ヲ認メズ冬季攻勢時ノ執拗ナリシニ比シ前記局部
的戰例ト雖モ尙若干ノ見劣リアル如ク感ゼラル

七 督戰位雜軍ノ戰意ニ就テ

ノ從來敵軍ノ常套手段タル督戰ハ今次作戰ニ於テハ殆ド之ヲ明瞭
ニ見ルヲ得ザリキ蓋シ本作戰間目マグルシキ機動作戰ニ終始シ
敵ガ計畫的ニ雜軍中央軍ヲ區別シテ配置スル余裕ナク又作戰地

2.

域廣大ニシテ後方豫備兵團ヲ逐次第一線ニ注入シ第一線直後ノ
 迎撃兵力ナカリシ等ニ依ル駐アランモ作戰間常ニ中央軍自ラ第
 一線ニ立チ反ツテ雜軍ハ當初撃破セラレテヨリ六月以降ハ傍觀
 ノ態度ニ出デタルヤノ感アルハ今次作戰ノ一特色ナルベシ

即五月上旬其陣地ヲ突破セラレ後方ニ退却若クハ側方ニ逃避セ
 ル第二十九集團軍、第六十八、第八十四、第四十五、第四十一
 軍等ハ其後殆ド積極的ニ行動セズ唯大洪山中ニアリシ第二十九
 集團軍、第四十五軍ハ我兵團ノ反轉往復ニ依リ交戦セシノミニシ
 テ又第六十八軍ハ度々ノ督促ニ依リ一部ヲ以テ信陽ヲ攻撃セシ
 コトアリ其他一部ノ游擊行動ハアリシモ益殺的ニハ是等雜軍ハ
 其位置ヲ離レズ終始消極的ニ傍觀的行動ヲ取リタル感多シ
 而之ヲ中央軍ニ對スル反感乃至ハ雜軍ノ戰意喪失ト見ルハ早計
 ナルモ積極犧牲心ニ乏シク協同連繫不十分ナル支那軍ノ一特性
 ヲ表現シアルモノト言フベク又反面ニ於テ中央軍ガ相當ノ自信

ヲ以テ自ラ抗戦ノ矢面ニ乗出シアルモノト見ルヲ至當トスベキ
 モ前記督戦行爲ノナカリシ點ト共ニ注目スベキ所ナルベク沈黙
 ノ間既ニ雜軍ニ於テハ抗戦ニ對シ中央軍ト其熱意ノ點ニ大ナル
 差アルヲ如實ニ物語リアリト觀察シテ大過ナカルベシ

3. 固ヨリ雜軍ト雖モ第二十九集團軍ノ如ク大洪山中ニ於テ第四十
 師團ニ對シ頑強ナル抵抗ヲナセルモノ、或ハ張自忠ノ挺進的活
 動等之ナキニ非ザルモ前者ハ彼ガ年來ノ根據地ニシテ自己保存
 上已ムヲ得ザル行動ニシテ後者ハ不本意乍ラモ上級司令部ノ督
 促ニ依リ又作戦初期ノ昂奮セル間ニ於ケル特異ノ行動トモ見得
 ベシ

ハ敵軍ノ編制裝備ニ就テ

ノ敵ハ全軍ヲ通ジ各師ヲ三單位ニ改編中ナリシガ交戦ノ結果ハ殆
 ド全部其改編ヲ終了シアリ第五十五軍ハ作戦間四單位制ヲ存續
 シアリシモノノ如キモ今次作戦ノ損耗ノ結果整理セラルベキモ
 ノト判断セラル

軍ノ三個師編成ハ宜昌作戦間發令セラレタルモ未ダ完了セザル
 モノノ如シ

2. 各軍師ノ編制、裝備ニ關シテハ從來ニ比シ特異ノ點ハ認めラレ
 ズ元來各師ニ依リ各種各様ノ裝備ヲ有シ極メテ複雑ナル敵軍ノ
 編制裝備ニ關シ一部ノ調査ヲ以テシテハ固ヨリ正確トハ言ヒ難
 キモ交戦ノ結果竝俘虜ノ供述其他ニ依リ觀察セラルル所左ノ如
 シ

(1) 火炮裝備ハ依然貧弱ニシテ各師ニハ個有ノ砲兵ヲ有セザルモ
 ノノ如シ然レ共中央軍各師ニハ概ネ軍ノ砲兵營若クハ團ヨリ

若干ヲ分屬セラレアリテ八一四門ヲ有シアル師多カリキ。砲種ハ山砲比較的多キモ野、山砲ノ不足ヲ中迫撃砲ヲ以テ代用セルモノ亦少カラズ、但砲兵ノ彈藥裝備ハ概メテ貧弱ニシテ砲兵トシテ活動ハ特ニ見ルベキモノナシ唯陣地ヲ死守シ彈藥ヲ集積セル場合又ハ計畫的ニ集中使用セシ場合ハ砲兵トシテノ活動ヲナセリ

南昌正面ニ於テハ敵ノ計畫的戰力集中ノ結果稍此傾向現レアリ

(四) 迫撃砲ハ大小各種ノモノヲ裝備シ其ノ數モ亦師ニ依リ著ク差アルモ中央軍ハ概ネ各團ニ、中(又ハ輕)迫撃砲六門―八門ヲ有シアリ優秀師ハ稀ニ十二―十八門ヲ裝備ス

右ノ外小迫撃砲ヲ多數所有セルモノ多キガ如キモ各師ニ依リ著ク差アリ詳カナラス第二十九集團軍ノ如キ最近ノ情報ニ依レバ四七小迫撃砲四ヶ師ニテ三百二十門ヲ有シアルガ如シ

然レドモ彈藥ニ關シテハ最近敵ハ補充ノ圓滑ヲ欠キアリテ前記第二十九集團軍モ三百二十門ニ對シ彈藥裝備ハ一門ニ對シ五發ニ過ギザルガ如シ

(5) 編制表ニ依レバ各歩兵連ニハ擲彈筒ヲ有シアル如キモ末ダ全軍的ニハ完備シアラザル如シ然レドモ前項ノ小迫擊砲ヲ以テ之ニ代ヘ各連二―三筒ヲ裝備シアルモノ相當多キガ如ク稀ニ第二十九集團軍各師ノ如ク一連九筒以上ヲ有スルモノアリ又敵ハ我軍ノ擲彈筒ノ威力ニ恐レ之ガ對策ニ腐心アルモノノ如シ

然レドモ擲彈銃ノ裝備ハ各師相當實施セラレアリ特ニ各高等司令部ニ於テ然リ今次作戦間擲彈銃ノ鹵獲多カリシニ見ルモ明カニシテ師團ノ報告ニ依レバ南昌正面ノ敵亦一連ニ四銃ヲ増加セラレアリシモノノ如シ
而是等擲彈銃ガ蘇聯製ナルハ注目ニ價ス

(二) 重機關銃ハ大部ノ師ハ一營ニ六乃至四銃ニシテ夫レ以下ノ師亦相當アリ

輕機關銃ノ裝備ハ一連六銃ノモノ多ク優秀師ニハ九銃ヲ保有スルモノアリ然レ共又雜軍等ニ於テハ三銃ノモノ比較的多キガ如シ

(*) 押收兵器ニ依レバ小銃ハ獨逸製最モ多ク輕機關銃ハチエツコ式最モ多ク其大部ハ支那製ナリ

重機關銃ハベルギー製及獨逸製大部ヲ占メ 擲彈銃ハ全部新品ニシテ蘇聯製ナリ又迫撃砲ハ支那製ノモノ多シ

之ヲ要スルニ敵軍裝備ハ擲彈銃ニ於テ若干新裝備セラレタル感アル外一般ニ依然劣等化ノ感アリ冬季作戰時ニ比シ進歩ノ跡ヲ認メズ特ニ彈藥ニ於テハ其補給難ノ狀況ヲ察シ得彈藥携行定數ヲ彌シテハ作戰前敵ハ小銃彈一銃二〇〇發ヲ一二〇發ニ改メ又輕機關銃ハ一銃ニ對シ二〇〇〇發ヲ、重機關銃ハ四〇〇〇發ニ

夫々制限スル等減少シアリ

作戦後ノ補充ノ状況ヲ見ルニ第一線兵團ニ對シテハ思ヒノ外早ク相當補充セラレアルガ如キモ是敵ガ尙充分ナル餘裕ヲ有シア
ルニ非ズシテ彈藥殆ト皆無ノ爲志氣沮喪セル第一線兵團ノ志氣
ノ維持ト我進攻ニ對スル應急的對策ト見ルヲ至當トシ困難ヲ忍
ビテ補充ニ勉メアルモノト判断セラル

而モ尙今日ニ至ルモ未ダ補充ヲ受ケザル師相當多數ニ上リアリ
第二線兵團ニ於テ特ニ然リ況ヤ後方集積ノ如キハ今後尙遠シト
判断セラル

敵軍火砲重火器裝備調査一覽表・附表第四ノ如ク宜昌作戦後ノ
敵軍兵器彈藥補給狀況附表第二ノ如シ

第二、敵軍ノ戦法ニ就テ

一、我所謂速進速退ニ對スル敵ノ側撃、尾撃ニ就テ

一、蒋介石ノ「日本軍ハ最早進攻能力ナシ縱令一時突進シ來ルモ一週間後ニハ撤退スベキニ依リ日本軍ノ進撃スル正面ニハ一部ヲ配置シ主力ハ側方ニ集結シテ退却ノ機ヲ利用シ攻勢ニ轉ジ側撃尾撃ヲ行フト共ニ日本軍ノ退路ヲ遮斷シ包圍殲滅スベシ」トイフ新戦法ハ相當徹底シアリテ本作戦間ノ側撃尾撃ハ相當積極的ナリキ

例ヘバ作戦初期信陽北方ノ敵軍ガ我京漢線ニ沿フ突破ヲ判斷シテ毛集附近ニ第三十軍ヲ集結セントセシコト又湯恩伯軍ガ第三師團ノ泌源方向ヘノ突進ニ方リテ泌陽北方地區ニ集結シテ側撃及尾撃ヲ企圖シ或ハ第十三師團ノ安陸北方地區ノ突破ニ際シ正面ノ敵右翼兵團ハ其主力ハ漢水右岸ニ、第二十九集團軍ハ東方大洪山中ニ夫々逃避シ第十三師團ノ側撃、尾撃ヲ企圖シ或ハ又

五

五、月下旬白河反擊作戰後我隨棗公路ヨリノ撤退ヲ判斷シテ湯恩伯ハ第三十一集團軍、第九十二、第九十四軍ノ四箇軍ヲ桐柏山中ニ集結シテ我退却ノ機ヲ窺ヒ兵站線遮斷ヲ企圖シタル點又第二十九集團軍ヲ大洪山游擊隊トシテ其根據地ヲ固守セシメ側方ヨリ我兵站線ノ遮斷ヲ實施セシメタル等是ナリ襄西地區ニ於テハ一般戰況上此ノ種現象少ナカリシモ北方ヨリ南下セル敵軍ガ積極的ニ我ヲ攻撃スルコトナク我撤退ノ機ヲ窺ヒ十七日宜昌撤退ヲ見テ初メテ積極的ニ攻撃シ來レリ

2、然レ共此ノ結果ハ敵ノ抵抗意志ヲ消磨セシメ第一線將領ハ反ツテ之ヲ退却ノ口實トシ其戰法ヲ惡用シ而モ希望ノ如キ好機ハ一モ來ラズ中央ノ企圖シアル如キ效果ナカリシ爲作戰末期ニハ此戰法ノ殆下現ハレザリシハ注目スベキ所ニシテ今後此種戰法ガ依然採用セラルルヤ否ヤ疑問ナシトセズ

ニ攻勢思想ノ増加傾向ニ就テ

1、宜昌作戰當初ニ於ケル敵ハ日本軍ノ進攻方向ハ宜昌方面ニ非シテ襄陽、南陽方面ニ作戰スルナラムト判斷シアリシモノノ如シ
 而シテ從來ノ戦法ヨリセバ當初ハ大ナル抵抗ヲナスコトナク南陽、老河口方面ニ遠ク退避シ我後退ニ乗ジ反轉攻勢ヲ探ルベキ
 ニ今次作戰ニ於テハ孫連中ハ第一線部隊ヲ既設陣地ニ留メ湯恩伯軍ヲ北源附近ニ集結シテ我ヲ邀撃セント企圖シ、又李宗仁ハ江防軍ノ主力ヲ襄陽方面ニ轉用シテ我襄陽平地ヘノ進出ニ乗ジ攻勢ヲ探リ來リ敢て各師ヲ殲滅シテ反轉攻勢ヲ探ラシメ其他第九十四軍ヲシテ大別ニ孝感方面ノ交通遮斷ヲ企圖シ又第九十二軍ヲ以テ隨縣公路ノ遮斷ヲ策シ或ハ第四十五軍、第二十九集團軍等ヲシテ我包圍圈内ノ游擊根據地ヲ固守セシメ積極的ニ側撃、挾撃ヲナサシムル等對策極メテ積極的ニテ從來ノ統帥振リニ比シ意外ノ感サヘアリ我漢水渡河後ノ作戰指導ニ於テモ亦然リ斯クテ連續二ヶ月ニ亘リ常ニ攻撃攻撃一點張りヲ以テ指導シ極

メテ活潑ナル戰況ヲ現出セシハ注目スベキ現象ナリトス

2、支那軍が眞ニ攻勢ノ實力並攻勢ノ利點ニ對シテ確信ヲ持チアリトハ固ヨリ認メラザルモ

(イ) 我過去一年間ノ進攻作戰停止ニ依ル日本武力ニ對スル蔑視ト支那軍自身ノ實力ニ對スル自惚

(ロ) 支那軍健在ヲ海外ニ誇示スル爲ノ宣傳手段

(ハ) 我所謂速進速退ヲ豫メ豫想シ當初ヨリ攻勢ヲ採ルヲ有利トスル打算的觀念

等各種ノ原因ニ依リ逐次積極思想ヲ持ツニ至レルモノナルベク特ニ冬季作戰頃ヨリ常ニ「今ヤ日、支攻守地ヲ換へ總反攻近キニ在リ云々」ト宣傳シツツアル點ハ必ズシモ宣傳ノミニ非ズシテ不安乍ラモ自然ニ希望ト現實トヲ混同シ彼ノ增長性、驕慢性ヲ特色トスル國民性ニ依リ逐次相當積極的攻勢思想ヲ抱懷スルニ至リタルモノト觀察セラル

3. 而テ本作戦ニ於テ攻勢一蹴張リガ徹底的ニ失敗シ其ノ結果反テ大損害ヲ受ケタルヲ以テ今後支那軍ガ如何ナル態度ニ出ヅルヤハ固ヨリ即断シ得ザルモ本作戦ノ結果ハ其反動トシテ相當消極化スルニ非ズヤトモ判断セララル

夜間戦闘ノ賞用

1. 最近ニ於ケル敵ノ夜戦ノ賞用ハ特ニ顯著ニシテ我カ優勢ナル飛行機、砲兵、戦車等ノ活動シ得ザル時機ヲ選定セルハ劣等裝備軍トシテ當然ノ結果ニシテ敵軍自ラ攻勢ヲ採ル場合其攻襲時機ハ殆ド例外ナク夜間ナリ本次作戦ニ於テモ計畫的敵ノ攻襲ハ必ず夜間ナリキ、江南方面ニ於テモ亦然リ

又威力搜索的行動等ニシテモ常ニ夜間攻襲シ來リ晝間ハ一時退避シ再ビ翌日夜間攻襲シ來ル等ノ戦法ヲ採用シアリテ稍極端ト思ハルル程夜間ヲ使用シアリ

2. 然レ共夜間戦闘法夫レ自體ハ大ナル變化ヲ認メズ依然トシテ近

接手榴弾戰ヲ主トシアルモ唯本作戰間所々ニ於テ接戰格闘ヲ生起シタル點ハ注目スベキ所ニシテ將來此傾向ハ益々増加スルニ非スヤト判断セラル

四 山地依存ノ戰法

敵ハ戰場ヲ日本軍ノ有利ナル武器タル戰車、砲兵、自動直鎗ノ使用困難ニシテ支那軍ノ得意ト稱スル山地ニ求メントスル點ハ從來共相當唱導セラレツツアリシガ今次作戰ニ於テモ湯恩伯ハ唐、白河反擊戰後ハ直接察陽ニハ來ラズ全カヲ以テ桐柏山中ニ集結シテ戰場ヲ山地ニ選定セントシ、或ハ大洪山根據地ノ固守、或ハ襄西地區ノ會戰ニ於テ北方ヨリ南下セル軍並襄東地區ヨリ轉進セル湯恩伯軍ノ大部カ荆門方面松井支隊正面ヲ避ケテ遠安觀音寺方面ノ山地内ニ入リタル點等ハ此ノ戰法ノ採用ヲ如實ニ物語リアリ

五 強力兵團ヲ以テスル游撃ニ就テ

本作戰間第九十四軍ノ主力（當初三箇師後二箇師）ガ五月上旬

半ヨリ漢水下流ヲ渡河シ雁門口一京山、宋家鎮各南方地區ヲ繼
 テ一路孝感方面京漢線遮斷ニ向ヒタルモ應城北方地區ニ於テ警
 備隊及倉橋支隊ト交戦後北方ニ方向ヲ變更シ厲山附近ヲ經テ桐
 柏山中ニ進出シ又威寧附近ノ驍驍ヲ命ゼラレタル第九十九軍(三
 備師)ガ六月中旬九官山ヲ越ヘテ威寧東南方地區ニ侵入シ威寧
 附近ノ粵漢線ヲ遮斷セントシ天谷部隊ト交戦シ目的ヲ達セズ同
 月下旬後退シタル、或ハ李品仙ノ指揮スル第七軍主力ガ蔣介石
 ノ命ニ依リ花園東南方地區ニ侵入シ孝感、黃陂ヲ襲ヒタル等強
 大ナル兵力ヲ以テ深ク我警備線ヲ突破潛入シテ後方游撃ヲ企圖
 セルハ今次作戦ニ於ケル特徴トスル所ニシテ而モ是等各軍ハ我
 警備線通過ノ時ハ極力企圖ヲ秘匿シ僅カ十數名ノ分哨ニモ一指
 ヲ染メズ唯一路目的的地ニ向ヒ前進セシハ注意ヲ要ス而敵力我
 配備ノ細部ヲ知悉シアルト我ハ分散配置シ間隙大ナル現狀ニ鑑
 ミ將來此種敵ノ游撃ハ増加スルニ至ルベシ

2. 然レ共是等ノ敵ハ勿論補給機關ヲ伴ハザルヲ以テ某期間ヲ經過
セバ補給困難トナリ志氣沈滞シテ退却スルヲ以テ其時機ヲ待テ
テ邀撃シ打撃ヲ與ヘ得ベシ第九十九軍ニ對スル天谷兵團ノ富水
河谷ニ於ケル邀撃ノ如シ蓋シ敵ガ我速進速退ニ乗セントスル戰
法ヲ採用セルモ亦故ナキニ非ス

第三、支那軍ノ特性ニ關スル一部ノ觀察

支那軍ノ特性ニ關シテハ既ニ對支作戰參考資料ニ殆ド盡サレアリ特ニ取立ベキコトナキモ今次作戰間特ニ顯著ナリシ若干事項ニ關シ一部ノ觀察ヲ述ベントス

一、蝟集性

支那軍ノ蝟集性ニ就テハ既ニ定評アリ即痛痒ヲ感ズルヤ其戰略的態勢ノ優位ヲモ放棄シテ被脅威點ニ蝟集スルハ事變以來ノ常套手段ニシテ攻勢ニ自信ナク搜索機關ヲ欠キ情況不明ノ下ニ作戰セザルベカラザル劣等軍ノ真相ナランモ本作戰ニ於テモ第一次作戰開始セララルヤ江防軍ノ有力兵團第七十五軍及第三十九軍等ヲ襄東地區ニ轉用シ五月上旬末頃湯恩伯軍其他ヲ併セ呂堰鎮附近第三師團ノ先頭ニ向ヒ蝟集シ次デ軍ガ誘致攻勢ノ態勢ヲ占ムルヤ寺莊北方外側ニアリシ第八十五軍ハワザワザ石本支隊ノ内襲大平店方面ニ轉進シ其他ノ各軍悉ク襄陽ヲ目標トシ外線ヲ捨テテ我正面内ニ

割込ミ來リ或ハ又我漢水渡河後宜昌方面西進ヲ見ルヤ北方ヨリ南下セル敵及湯恩伯軍ハ安陸ヲハ荆門方面我側背ノ弱點ヲ願ミズ主力ヲ遠安、當陽方面ニ蝟集セシメタル等是ナリ

二 執拗性テ 政略的目標等アル場合特ニ此傾向甚シ

幾度蹂躪セラルルモ黙々トシテ立上ル支那人ノ特性ハ支那軍ニ其儘現レ遊撃戦法ノ採用ト相俟テ極メテ執拗ナリ

張自忠軍ガ漢水ヨリ小船ヲ以テ輕易ニ渡河シテ幾度カ兩岸ニ策動シ又大洪山系内ニ潜伏セル第二十九集團軍及第四十五軍等亦龜ノ如ク各方面ニ頭ヲ出シテハ叩カレツツモ尙執拗ニ妄動セシ等其最タルモノニシテ勿論敵ガ我包圍圖ヨリ活路ヲ求メテ情況不明ノ間ニ彷徨中我軍ト衝突セル點少シトセザルモ亦彼ノ執拗性ノ一端ヲ物語リアリ

三 增長性ト萎縮性

本作戦間特ニ其初期ニ於テ攻勢ヲ呼號シテ猛烈ナル勢ヲ以テ蝟集
 シ來リシニ一度唐河々畔ニ反撃痛撃セラルルヤ掌ヲ擧スガ如ク萎
 縮シ速ク退避シテ我漢水渡河準備間相當長期ニ亘リ敢テ近接セズ
 又當陽、宜昌北方ニテ大軍ヲ蝟集セシメツツ掛壁ノミニテ第一線
 軍師ハ一步モ近寄ラザリシ等作戰初期ニ比スレバ將ニ警覺ノ差ナ
 リ
 而モ十七日第十三師團ノ宜昌撤退、第三師團一部ノ東進等ヲ見ル
 ヤ之ヲ目撃セル當面ノ第二、第十八、第七十五軍等ハ直ニ躊躇増
 長性ヲ發揮シテ猛烈ニ妄動ヲ開始セシ等全ク彼ノ特性ヲ遺憾ナク
 發揮シアリ

第四、其他若干ノ觀察

一 宜昌作戰ノ特色ニ就テ

1、本次作戰ハ作戰的見地ヨリセバ變轉極リナキ機動作戦ノ連續ニ
 シテ對陣状態ノ内線ヨリ敵陣地帯ヲ突破シ外線ニ轉ズル分進包
 圍作戰、張自忠兵團ニ對スル反撃作戰、敵軍主力ニ對スル白河

々畔ノ誘致攻勢、準備尠キ敵前大河渡河作戰、強大ナル敵軍ノ追躡ヲ制シツツ襄西敵軍主力ニ對スル當陽周邊ノ包圍作戰並宜昌攻略、兵站線ニ對スル強力ナル游撃破潰戰等アリ、此間陣地ノ突破、追撃、退却、遭遇戰、誘致反撃戰或ハ平地、山地大小ノ渡河戰等ヲ包含シ作戰五旬ニ近ク全ク寧日ナキ極メテ活潑ナル戰鬪ヲ生起セリ

2、是敵軍ガ從來ト異リ積極的ニ攻勢ヲ採リ相當ノ衝力アリシ點及敵軍ガ我軍ノ速戰速退ニ乘セントセシ靛斷、過失、縱長ノ衆敵ノ新手ヲ逐次ニ轉用増加シテ我ニ乘セントスル利點發揮、敵軍ノ蟻集性、執拗ナル遊撃戰尊重等敵軍ノ戰法及戰意ノ反映ト相俟チテ本作戰ノ經過ヲ辿リタルモノト謂フベシ

3、更ニ之ヲ後方運用ノ見地ヨリセバ企圖ヲ秘匿シツツ行フ集積、作戰規模及兵力ニ比シ過少ナル後方部隊ヲ以テ大規模ノ作戰ヲ實施シ數次ニ亘リ兵站線路ノ切替、或ハ主力兵團ノ後方ヲ遮斷

シテノ作戰決行漢水ヲ利用スル水路兵站ノ運用、徹底的破壊地帯ニ於ケル急速ナル交通、補給路ノ補修確保等對支將來戰ノ爲示唆スル所大ナリ

4、又企圖秘匿欺騙等ノ觀點ヨリスルモ南支北支ニ亘ル協力作戰、江南陽動作戰、集中ノ短縮、防諜、報道ノ利用、禁止等將來研究スベキ所又少カラズ

ニ作戰的成果

本次宜昌作戰ノ成果ニ就テハ固ヨリ今後ノ諸調査ニ俟ツベキモノ多キモ今マデニ得タル諸情報ニ依リ感知セル若干事項ニ關シ記述ス

宜昌作戰綜合戰果附表第一ノ如シ

1、敵軍ニ與ヘタル損傷度

(1) 特殊情報其他ニ於テ判明セル敵軍損傷度左ノ如シ

第三十一集團軍（六月下旬迄）

一四、〇〇〇名

- 第四十五軍（六月十日迄） 約二、八〇〇名
 - 第八十五軍（五月二十二日迄） 戦死 一、八〇〇名
 - 第九十二軍（六月上旬迄） 一、三〇〇名
 - 第二十九集團軍（四ヶ師） 約八、〇〇〇名
 - 第二十九師（六月十七日） 戦闘員約一、〇〇〇名ノミ
 - 第七十七師（五月中ノ死傷） 約三、〇〇〇名
 - 騎兵第九師（五月四日） 戦闘員約一、〇〇〇名ノミ
 - 第四十一師（六月下旬迄） 約二、〇〇〇名
 - 第四十四師（六月下旬迄） 約一、五〇〇名
 - 第十一師（六月六日―下旬） 約二、五〇〇名
- (ロ) 以上ノ内第四十五軍、第二十九集團軍、第九十二軍、第八十五軍ハ交戦状態ヨリ推シテ損害比較的少カルベシト判断セラレアル兵團ニシテ最モ打撃ヲ與ヘタリト思ハルル第十三軍、第七十五軍、第三十九軍、第七十七軍、第五十九軍、第八十四

軍第四十一軍等ハ概ネ少ナクモ過半數ニ打撃ヲ與ヘタルモノト確言シ得ベク之ガ例證トシテ第十三軍、第七十五軍、第三十九軍ニ關シテハ共ニ電話ノ窃聽、俘虜ノ自白ニ依レバ概ネ七八割ノ損害アリト稱シ居タル點或ハ第五十五軍ガ三ヶ團ノ補充ヲ受ケタルモ尙一萬人ノ欠員アリト報告（七月九日特情）シアル點又漢水右岸ニ於ケル作戰間馮治安以下第三十三集團軍ノ如キハ軍、師長ガ一營又ハ一團内外ノ手兵ト共ニ彷徨中ナルノ情報ヲ推察セバ概ネ其打撃度ヲ判斷シ得ベシ

（ハ）此次作戰ノ一特色ハ襄西地區ニ於ケル敵軍根據ノ覆滅ニシテ敵ノ軍需資材ノ損耗度ノ莫大ナル點ニ存ス

軍ガ鹵獲燒却セル小銃彈ハ大約一千二百萬發ニ達シ敵ガ自ラ燒却シ或ハ沿道ニ放棄シアリタル彈藥亦莫大ノ數ニ上リ無數トイフヨリ外資藥ナシトイフ兵團ノ報告ニ徴スルモ相當ノ數ニ達シ第五戰區後方軍需品ノ大部ヲ潰滅セルモノト判斷シ得

ベシ

特情ニ現レタル彈藥、兵器ノ請求、補充狀況ヲ見ルモ亦之ヲ
推測シ得

即六月末荆門、當陽北方ニ來レル敵軍ガ等シク悲鳴ヲ發ゲ李
宗仁亦第七十五軍ノ度々ノ彈藥補充ノ請求ニ對シ第五戰區ニ
ハ追送スベキ彈藥ヲシ（六月二十三日特情）ト通報セリ
今輸入路ヲ封鎖セラレタル敵軍今後ノ抗戦力ニ及セル影響ハ
極メテ大ナルモノアルヲ確信ス

2、敵軍戦力恢復度ニ就テ

從來敵軍戦力恢復ハ各會戦後概ネ二―三ヶ月ヲ以テ一週リノ補
充補給ヲ終リ態勢ヲ立直シ得タルガ如キモ今次作戦ニ依ル損耗
度前述ノ如ク現下支那軍ノ補充、補給上ノ窮狀ヲ見レバ之ガ恢
復ハ從來ノ如ク簡單ニ片附ケ得ザルヤ明カニシテ恐ラク半歳ノ
後ヲ待ツモ從來通りノ戦力恢復ハ困難ナルベシト判断シ大ナル
過誤ナカルベシ

敵ハ七月中ニ人員補充ヲ了シ八月ヨリ専ラ訓練ヲナスベク命令
 セシモ江南方面ニ於テモ之ガ實施ハ困難ニシテ江北方面ニ於テ
 ハ尙相當ノ兵力移動中ニシテ主力ノ完了ハ九月ニ及ブベシ
 人員、彈藥ノ補充情況ニシテ特情ニ現レタルモノ附表第二ノ如
 シ

3、敵軍統帥部ニ與ヘタル震撼度ニ就テ

(イ)張自忠軍司令部ノ覆滅、第一七三師及第一八〇師長等高級幹
 部ノ戦死從來ニ比シ多ク是等ノ志氣上ノ影響大ナルハ想像ニ
 難カラズ又今次作戦ノ損害度モ時日ノ経過ニ伴ヒ其真相判明
 シテ更ニ敵ノ動搖度ヲ増加スベシ

(ロ)過去一ケ年在支各軍ガ敵ノ所謂速進速退ノ作戦ヲ繰返シタル
 結果蔣介石ハ日本軍ニ最早進攻能力ナシトシ且速進速退ニ對
 抗スル戦法ヲ採用シテ速退ノ機ニ乗ジ側撃、尾撃ヲ行ヒ我ニ
 勝利ヲ得ント企圖セシ如キモ本次作戦ニ於テ屢々敵ノ尾撃、

側擊ニ對シ反擊ヲ加ヘ白河誘致反擊作戰、大洪山反擊作戰等ニ依リ完全ニ其企圖ヲ破碎シ反テ衝力ヲ利用シテ大打撃ヲ與ヘタル結果ハ敵ヲシテ其失敗ヲ自認セシメ爾後專ラ離隔游擊ヲ事トセントスルヤ意表外ノ漢水奇襲作戰ニ會シ宛モ陳誠ハ六月四日新聞紙上ニ「豫鄂作戰ノ大勝」ヲ宣傳セル時機ニ於テ彼ノ夢想ダニ及バザリシ結果ヲ招來シ内外ニ統帥部ノ威信ヲ失墜セルノミナラズ更ニ蔣介石ハ急遽陳誠、劉時等ヲ派遣シ督戰大ニ勉メ湯恩伯亦必死ノ激勵ニ依リ戰勢挽回ヲ企圖セシモ既ニ策ノ施スベクモナク其無力ヲ暴露シ且自己ノ力ヲ自覺セザルヲ得ザルニ至レル等敵統帥部ニ及ボセル影響大ナルモノアリタルハ察スルニ難カラズ

三 政略的成果

沙市及宜昌ノ攻略ハ南北兩戰區ノ遮斷、四川入口ノ封鎖、對奧地航空攻襲基地獲得等幾多ノ戰略上ノ利益ノ外重慶政權ヲ常ニ日本

ノ國力竝ニ武力ハ既ニ盡キ支那軍ハ反テ強化セラレ既ニ攻守地ヲ代ヘタリト内外ニ宣傳シアリ且今次作戰開始セラレヤ之ヲ利用シ支那軍ノ健在ヲ内外ニ誇示セントセシ企圖ハ彼ノ大々的宣傳ニモ拘ラズ完全ニ覆ヘサレタルノミナラズ更ニ難攻不落ト豪語セシ喪西敵陣ガ戰勝ノデマ宣傳下ニ呆氣ナク崩壞シ重要據點沙市、宜昌ヲ攻略セラレ之ガ奪回ヲ呼號シナガラ一指ダニ染メ得ザリシ事實ノ證明ハ彼一流ノ如何ナル詭辨牽強附會ノ宣傳ニモ拘ラズ寧ロ從來ノ過大ノ宣傳アリシ爲一層反動的ニ内外ニ信ヲ失シタルモノト言フベシ

四 進攻作戰ニ對スル觀察

一、宜昌作戰ヲ昨年末ノ冬季作戰ニ比較スルニ其兵力、規模固ヨリ多少ノ差アルモ共ニ概ネ五旬ニ亘リ第五、第九兩戰區ニ亘リ作戰セルモノニシテ冬季作戰時ノ敵ノ遺棄死體約五萬、我損傷約九千ニ對シ宜昌作戰ニ於テハ敵屍約九萬、我損傷約一萬五百ニ

シテ前者ニ比シ特ニ我損傷ノ比較的小ナルニ注目セザルベカラズ鹵獲品ニ於テハ其差更ニ大ナリ

2、固ヨリ防勢作戦ニ於テハ築城ノ利用集結兵力ノ増加ニ依リ更ニ戦果ヲ擴大シ得ルノ方途アルモ國軍ノ實情ハ受動的作戦ニ對シテハ無關心タリ得ザルモノアリ上下共ニ一種表現シ難キ氣持ニ終始セザルベカラザルハ争フベカラザル事實ナリ

殊ニ敵ヲ撃退スルノミニテ徹底的追撃ノ伴ハザル場合ハ長ク志氣上ニ悪影響ヲ及セルハ否ムベカラズ

殊ニ一度弱味ヲ見スレバ直ニツケ上リ増長スル支那軍ニ對シ彼ニ主動ノ地位ヲ與ヘンカ其及ス影響ハ決シテ物質上ノ損害ヲ以テ補フベカラズ其結果ノ政略外交等ニ及ス影響亦少カラズ
今次作戦ニ於テモ其初期從來ニナキ活潑ナル行動ヲ採リシモノ其依テ來ル所アリ

3、進攻作戰ニ於テハ時期ト地點ヲ欲スル儘ニ選定シ得又敵軍指揮組織ノ崩壞、後方施設ノ覆滅等作戰的利益ハ固ヨリ彼我ノ志氣上ニ及ス無形の利益及敵地民衆ニ對シ我武威ヲ示シ得引テハ他ノ政略外交ノ有力ナル支撐タラシメ得ルコト特ニ作戰ガ政略上ノ要地附近ニ施行セララルルニ伴ヒ更ニ其價值ヲ増大シ得ベシ

支那民衆ノ知識程度、國民性、常套宣傳政策等ニ鑑ミ特ニ支那軍ニ對シテハ進攻作戰ノ極メテ有利ナルヲ更ニ痛感スルモノナリ

我各兵團ノ機動、戰鬪力ニ就テ宜昌作戰間最モ活潑ナル戰鬪竝機動ノ實施セラレタル五月一日乃至六月十二日約四旬ノ各兵團ノ行動距離ノ概要附表第三ノ如シ即第十三師團ハ安陸出發ヨリ宜昌攻略迄四十二日間ニ約一二〇〇軒、一日平均二十八軒ノ強行軍ト戰鬪ノ連續ニシテ而モ此間休憩

ヲ實施セルハ概ネ二口ニ過ギズ第三師團亦之ニ近シ
其他ノ各兵團ト雖モ夫々特異ノ戰況下ニ各特色ヲ發揮シタルモノ
ニシテ如何ニ各兵團ガ炎天、黃塵ヲ冒シ補給ノ難ヲ克服シツツ超
人的機動及戰鬪力ヲ發揮セシカヲ觀察シ得ルノミナラズ情況ノ急
變ニ應ジ或ハ難局ヲ自ラ克服シ或ハ神速新部署ニ轉移シ些ノ遺憾
ナカリシ各兵團ノ滅私的行動、圓熟セル統帥指揮將兵ノ底力等眞
ニ皇軍ノ眞價ヲ發揮セルモノトイフベク特録ニ價スルモノト確信
ス

第五、今後ニ於ケル敵軍ノ動向ニ關スル觀察

一 敵軍ハ今後稍久シキニ亘リ援蔣「ルート」遮斷ノ今日ノ情勢下ニ於テ彼ノ所謂總反攻ヲ企圖スル如キハ難事^中ノ難事タルベク當分ノ内敵抗戰方式ハ依然持久游撃ヲ方針トスベシ

ニ 然レドモ現下列國ノ援蔣關係ヲ持續シ更ニ進ンデ之ヲ強化スル爲支那軍ノ健在ヲ誇示スルノ必要上萬難ヲ排シテ相當規模ノ反攻ヲ企圖スル公算亦少シトセズ而シテ其時期ハ略々現盤纏ノ終了スル時機以後ナルベク結局早クモ十一月頃以降ナルベシト判斷セラルルモ現時ノ如キ國際情勢下ニ在リテハ無理ヲ忍ブモ其時機ヲ早ムルコトナシトセザルベシ

反攻ニ方リ作戰目標ハ宣傳價值アル要點要城ヲ選定スベク集團正面ニ於テハ敵兵團ノ現配置、交通路等ノ關係ヨリ察スルモ差當リ宜昌奪回ヲ呼號シテ襄西地區ニ對スル反攻ガ其重點トナルモノト判斷セラル

宜昌作戰間敵軍主要訓示

一 李宗仁ノ訓示（六月九日）

南下ノ敵ハ既ニ我主陣地ニ到達セリ此次ノ會戰ハ戰區及抗戰ノ前途ニ齎ス影響甚大ナルコト先電ニ達シ置キタルトコロナリ我各級將兵ハ任務ノ重大性ニ鑑ミ私事一切ヲ願ルコトナク任務ノ達成ニ全力ヲ傾倒スベシ

若シ我正面陣地^線ハ一點ヲ敵ニ突破セラレコトアリト雖モ或ハ又優勢ナル敵後續部隊乃至ハ海軍陸戰隊等増援隊アリト雖モ聊モ動搖スルコトナク所定ノ目的ニ向ヒ敢然トシテ勇往邁進スベシ我江防軍各部ハ目下荊門、當陽一帶ニ在リテ交戦中ナルモ^{我方ノ優勢ハ}テ有利ニ進展シアリ我軍ハ此機ニ於テ敵ヲ徹底的ニ殲滅セントス

各軍ハ夫々所負ノ任務ニ邁進シ以テ戦區ノ殲滅戰ニ一段ノ光彩ヲ添フベシ

ニ湯恩伯ノ訓示其一（六月十三日）

1、敵ハ今次宜昌ニ進攻セルモ我江防軍ノ優勢ナル迎撃ニ依リ敵ノ死傷頗ル多シ

目下敵ノ一部ハ宜昌ニ侵入シアルモ其態勢ハ極メテ混亂シ且其部暑モ亦未ダ決定シアラザルヲ以テ我全體ノ將兵ハ將ニ此好機ニ乗ジテ急進シ以テ「最後ノ五分間」ノ效ヲ收ムベシ

2、軍ノ足跡到ル處敵死傷者壘ヲ爲シ敵殲滅ハ將ニ我手中ニ在リト雖モ若シ敵ノ生命ヲ我手中ヨリ脱逸セシメンカ中國ニ仇爲スコト飽クトコロヲ知ラズ我軍ノ重大岐路ハ將ニ此間ニ在リ

依而各級將兵ハ此ノ好機ニ乗ジ絶大ノ戰鬥力ヲ發揮スベシ今次作戰ノ成果ハ敵ニ與ヘタル死傷數ノ多寡ニ依リ決定スルモノナリ

3、作戰地境ハ先電ニ據リ遼シ置キタルモ各軍ハ緊密ニ連繫シ所定ノ任務ニ邁進スベシ

4、今次作戰ニ依ル失地ノ奪回ニ左ノ如ク賞金ヲ附ス

宜昌 奪回 五十萬元

當陽 奪回 十萬元

荊門 奪回 五萬元

5、今次ノ戦闘ハ將ニ我五千年ノ歴史ヲ有スル中國軍人ノ最モ光榮ナル戦闘ナルヲ認識シ各員一層ノ努力ヲ要望ス

湯恩伯ノ訓示其二（六月十八日）

我正面ニ在ル敵軍總兵力ハ二個師團及二個旅團ニ過ギズ然モ我軍不斷ノ猛攻ニ多大ノ死傷者ヲ出シ疲勞極度ニ達シアリ
之ニ對シ我軍兵力ハ六個軍（註 85A 94A 3CA 75A 92A 55A）ノ多キニ達ス
尙敵ヲ殲滅シ得ザレバ何ヲ以テカ國家國民ニ見エンヤ
今次會戰ハ將ニ中國抗戰力ノ健在ヲ中外ニ誇示スベキ絶好ノ機會ナリ

我全體將兵ハ光榮アル中國軍人タルノ名譽ヲ想起シ命令ヲ遵奉シ
任務ノ達成ニ邁進スベク階級、職務ノ何レタルヲ論ゼズ一意自己
ノ任務ニ邁進スベシ

虎穴ニ入ランズバ虎兒ヲ得ズ

各部ハ全軍環視ノ中ニ在ルヲ忘レズ勇戰奮闘該敵ヲ殲滅シ無敵中
國軍ノ聲價ヲ發揚スベシ

四 陳誠ノ激勵（六月三十日）

今次ノ出撃ハ我國抗戰ノ前途ニ重大ナル影響ヲ與フルモノナリ
我全體將兵ハ一致結束全能力ヲ傾ケテ作戰ニ從事スベク已ニ我方
ノ籌略宜シキヲ得主動的地位ヲ獲得シ戰勝ハ正ニ目前ニアリ
吾人ハ中國軍人タルノ名譽ヲ想起シ其擔當任務ノ達成ニ邁進スベ
シ

生死ヲ論ゼズ只々國家民族ノ爲一意努力スルトキ如何ニシテ戰勝
ヲ獲得シ得ザルノ理アラシヤ

勝利ハ已ニ我手中ニアリ


各將兵益々奮闘努力スベシ

五 李宗仁ノ訓示（六月二十八日）

軍紀ハ軍隊ノ命脈ナリ如何ナル場合ニ在リテモ弛緩スルヲ許サズ
今次ノ會戰間ニ於テ不法行爲ヲナシ或ハ任意ニ隊列ヨリ離棄シ民
衆ヲ脅迫シ物品ヲ掠奪セルガ如キ行爲ヲナシタルモノハ各級指揮

官ニ於テ斷乎タル處置ヲ採ルベシ若シ不正ヲ看過シ軍紀弛緩スル
ガ如キ專アラバ何ヲ以テカ民心ヲ收攬シ戰勝ヲ獲得シ得ンヤ
上官ハ嚴重ニ部下ヲ戒飭シ以テ軍紀ヲ嚴正ニ維持スベク將兵ハ各
自ノ職責ヲ格守スベシ

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	<table border="1" data-bbox="539 495 1015 745"><tr><td data-bbox="539 495 778 745">1</td><td data-bbox="778 495 1015 745">2</td></tr></table>	1	2
1	2		
分割撮影 した 理 由	A 3判以上のため		
<p data-bbox="290 1189 1310 1346">上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p data-bbox="347 1480 932 1563">8 年 4 月 日</p> <p data-bbox="549 1682 831 1742">主務者又は</p> <p data-bbox="549 1839 831 1906">撮影立会者</p> <p data-bbox="906 1809 1422 1921">坂根嘉和 </p>			

TTTT

附表第一

自四月上旬至七月上旬
呂集團宜昌作戰綜合戰果表

昭和十五年八月一日
呂集團參謀部調製

要主		益害		損		兒		與		敵		敵		戰		團		本		隊		區		分		方		面		別																																																																									
用是十字	龍劍	鉞	爆	地	爆	信	擲	手	拳	小	輕	重	高	迫	機	山	野	俘	遺	棄	死	體	敵	戰	團	本	隊	區	分	方	面	別																																																																							
八三五四	一九〇	一三六三	二九〇	二三五	三三〇	六四一	四三〇	九五七四七	二七四一	一〇五四〇	二九三九四〇	五六五七五〇	二二〇五	一九四八七	七三九五二	二八〇〇	三六九一	四八〇一	一〇〇四	五七〇	一〇〇三	一〇〇八	二二六	一三三	一三六	四二九	五三四	一三三	一三三	四九五六	六八八九	六八八九	120° 2.10. 2.20. 2.30. 2.40. 2.50. 2.60. 2.80. 2.90. 2.110. 2.130. 2.140. 2.180. 2.230. 2.240. 2.440. 2.550. 600. 890. 950. 1850. R40. 190. 2.10. 2.20. 3.00. 3.10. 3.20. 3.30. 3.40. 3.90. 4.00. 4.10. 4.30. 4.80. 5.60. 7.60. 7.70. 9.30. 9.40. 10.30. 12.10. 14.20. 19.00. 20.0. 2.90. 3.50. 3.70. 3.80. 7.40. 9.10. 10.90. 11.00. 11.80. 11.90. 12.20. 12.30. 12.40. 12.50. 12.70. 12.80. 13.20. 13.50. 13.70. 14.30. 14.90. 15.00. 15.80. 16.10. 16.20. 16.30. 17.10. 17.20. 17.30. 17.40. 17.50. 17.60. 17.90. 18.00. 18.90. 19.90. 2.240. N.10. N.50. N.330. K.30. K.90. 2.70. 4.40. 警備第10. 新四軍游毒隊. T1B. T2B. T3B. T4B. T15B. T17B. 29CA 其他	中直二二師 中傍三三師 其他 計 旅 八七師 其他	江 北 方 面	師 名	計 名	一七六一	九八一	一〇二九	三三五〇	六四一	四三〇	七二四九	三五五	一〇二九	二七四一	一〇九四九	三二一九四〇	五七〇八五〇	二二〇五	一九四八七	七三九五二	二八〇〇	三六九一	四八〇一	一〇〇四	五七〇	一〇〇三	一〇〇八	二二六	一三三	一三六	四二九	五三四	120° 5.10. 5.20. 5.80. 5.90. 9.00. 9.20. 9.80. 10.0. 2.60. 3.30. 8.20. 9.90. 10.20. 10.90. 13.90. 14.00. 14.10. 10.50. 13.30. 13.40. 18.20. 18.30. 18.40. 19.90. N.100. N.110. N.130. N.140. N.150. N.160. R.50. R.90. 游毒隊其他	中直二二師 中傍三三師 其他 計 旅 八七師 其他	江 南 方 面	師 名	計 名	一〇一五	二三四	四二二	三三五〇	六四一	四三〇	七二四九	三五五	一〇二九	二七四一	一〇九四九	三二一九四〇	五七〇八五〇	二二〇五	一九四八七	七三九五二	二八〇〇	三六九一	四八〇一	一〇〇四	五七〇	一〇〇三	一〇〇八	二二六	一三三	一三六	四二九	五三四	計 其 其他 新四軍游毒隊	中央直系 二九師 中央傍系 三二師 其他 計 五九師 一三〇師	合 計	八八八四	五六九一

1112-2

12